

KAGAWA アンバサダーからのお便り～楠川富子さん～

～カンボジアの歴史、文化、習慣、観光名所について～

カンボジアには、世界遺産のアンコールワットをはじめとして遺跡、仏像、彫刻など、たぐいられない多くの遺跡群があります。首都プノンペンには、フランスから独立後初めてのカンボジアの首都は、古都[UDON]うどんであり日本人街もあったと聞いています。うどん県との関係は不明ですが、手打ちの讃岐うどん屋さんもあり、なじみ深く、今ではカンボジア人のお客さんも増えてうれしい限りです。

約20年前に初めてのJICAシニアボランティアとして、事前研修で、派遣国の異文化理解と言語を受講して、カンボジアに来た頃のことは今も印象深いです。

「クメールルージュ」と呼ばれる内戦があり、その痕跡が残されています。その歴史は、人々の記憶から消し去ることはできないと感じますが、それにまさるものが日々の生活の中にあり強い魅力があります。

カンボジアの大部分の人は、敬虔な仏教です。家族の絆、年長者を尊敬するなど、人を大切に思う微笑みの笑顔にあふれています。

言葉は話せなくとも、聞き取ろうとしてくれる思いがとても嬉しかったです。

英語、クメール語も十分でなく、讃岐弁を交えたTomiko語で話す私をあたたく受け入れてもらえ、幸せな毎日です。

～自身の活動について～

国立小児病院にJICAより派遣され、4年半、現場の看護師として活動しました。

そこでつぶさに子供たちのいのちと教育が、十分に守られていない現実に衝撃を受けました。子供たちの健康を守るためのプロジェクトの立ち上げを目標に、講演会など皆様のご協力とご支援をいただき、貧困のため医療機関までたどり着けない子供たちのために街の保健室をつくることから始めました。



JICA 時代の国立小児病院での仕事風景

現在は学校にも保健室がない現状にあり、子供たちの健康を守るために、カンダール州に学校保健室を新設して維持管理できるまでの体制作りを香川大学と共に活性化し、うどんハウスはSDGsの一環として継続・持続の見守りとして随時訪問させていただいています。

今年から香川県とカンボジアのアンバサダーとしての身に余る大役を委嘱させていただきました。今年には日本カンボジア友好70周年記念として多くの行事があります。先日も高校生日本語スピーチコンテストが開催され、若者の熱い思いに感動しました。

～県民の皆様へのメッセージ～

カンボジアにはたくさんの日本人の方が住んでおられます。香川県からも教育関係、レストラン経営、ミュージシャンの方々も住んでおられます。

12月には、アンコールワットマラソンもありますので、是非皆様のご訪問を心よりお待ちしております。



うどんハウスが寄付した学校のトイレ



支援先の小学校の校長と生徒たちと



楠川 富子（くすがわ とみこ）さん

綾川町出身。

高松赤十字病院を定年退職後、2006年から通算4年半、JICA シニア海外ボランティアとしてカンボジア国立小児病院で看護管理に従事。

2015年よりカンボジアに移住し、翌年に現地NGO「うどんハウス」を立ち上げ、子どもたちの健康と地域の福祉の向上に貢献している。

◇KAGAWA アンバサダーについて

香川の魅力を世界へ発信するとともに、本県の諸課題に対する情報提供、活動、提言等を行っていただく大使です。主に世界を舞台に活躍している香川県出身者や県にゆかりのある方で、各界から候補者の推薦を受け、識者による選考後、知事が委嘱しています。

◇KAGAWA アンバサダーからのお便りについて

県民の方々に KAGAWA アンバサダー事業及び県の国際化の推進について、より理解を深めていただくことを目的に、世界を舞台に活躍されている KAGAWA アンバサダーの方々から在住国や御自身の活動等について御紹介いただくものです。